

平成19年度事業報告書

(概要)

大変厳しい経済情勢の中で、石原会長を始めとする各理事の努力により、一昨年度から、新しい賛助会員の入会や、特別協賛、広告掲載協力のご支援を頂ける企業が少しずつ増えて参りました。

公的助成金も引続き厳しい状況にあるところですが、スポーツ振興基金からも、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007」への助成金を、例年通りに頂く事が出来ました。

「第27回日本少年少女オープンヨット大会（東西日本地区大会）」については、東日本地区大会には昨年に引続き「アビームコンサルティング株式会社」の特別協賛を頂き、西日本地区大会には地元の「今治造船株式会社」の特別協賛を頂くことが出来て成功裡に開催が出来ました。

本年度の競技会事業は下記の通りです。

上記にご説明の東西日本地区大会、全国大会の他に、ジュニアヨット国際親善レガッタも「三起商行株式会社」の協賛を頂き、「ミキハウスカップ」として東京都ヨット連盟との共同主催の形で開催しました。当初企画していた「三ツ矢サイダーカップ」は、「アサヒ飲料株式会社」からの大きな協賛は頂けなかったものの、清涼飲料の提供や名称の使用許可を頂くことが出来たので、規模を縮小して、鹿児島ジュニアヨットクラブと鹿児島県セーリング連盟が5年前から開催している「九州ウインターカップ」を、当連盟との共同主催の形で拡大した企画で、「2008三ツ矢サイダーカップ」として、平成20年2月初めに鹿児島市で開催出来ました。

- 1) 第27回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）
平成19年5月3日(木)～5日(土) 長野県信濃町野尻湖
- 2) 第27回日本少年少女オープンヨット大会（西日本地区大会）
平成19年5月3日(木)～5日(土) 愛媛県新居浜市
- 3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007
平成19年8月3日(金)～8月5日(日) 東京都若洲ヨット訓練所
- 4) 第17回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2007）
平成19年9月2日(日) 東京都若洲ヨット訓練所
- 5) 2008三ツ矢サイダーカップ九州大会（第6回九州ウインターカップ）
平成20年2月2日(土)～3日(日) 鹿児島市平川ヨットハーバー

第27回日本少年少女オープンヨット大会（東日本、西日本地区大会）は、それぞれ長野県や愛媛県の県連や地元ジュニアヨットクラブの皆さんと事前準備を進め、参加クラブの指導者、保護者の皆さんにも競技運営に参加して頂いて充実した大会を行うことが出来ましたが、(財)日本セーリング連盟が主催するシーホッパー級の選手権大会と日程が重なった為に同級の参加選手が少なく、西日本地区大会ではゼロとなったことが残念でした。

全国大会は、東京湾の東京都若洲ヨット訓練所で、例年より1ヶ国多い4ヶ国、韓国、ニュージーランド、オーストラリア、ロシアを招聘して、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007」として開催しました。

参加選手も、全国各地からの選手106名に外国チームの20名を加えた総勢126名となり、保護者、指導者、運営役員を含めると約300名の大会となりました。クラブ対抗も、参加選手の多い江ノ島ジュニアヨットクラブが昨年が続いて連続優勝し、昨年は山形ジュニアヨットクラブと共同出場で3位だった山形県温海中学校ヨット部が今年は単独チームで2位、K.M.C.横浜ジュニアヨットクラブが3位と昨年の2位、3位が入れ替わりましたが上位3チームは参加選手数の多い同じクラブ同士の戦いでした。国際交流も含め、ジュニアセーラーの日頃の成果や指導者の情報交換の場として有意義な大会になったと考えています。

「2008三ツ矢サイダーカップ九州大会」として開催した「第6回九州ウィンターカップ」には、九州地区各クラブの参加を得て初めて冬場の大会を共同主催しました。

「ユースセーリング」の発行につきましては、10月に第75号、年度末の3月に第76号の発行をして、その内容、企画も新しくなり充実してきました。

(部門別詳細)

1. 総務関係部門

(1) 会員開発と加盟促進 (総務委員会／普及渉外委員会／財務委員会)

(イ) 新たに1クラブが加盟、2クラブが活動復活、12クラブが退会となり、6クラブが休会。現在加盟クラブの代表者である正会員は65名となっています。(休会15クラブ)

(平成20年6月19日現在)

(新規加盟クラブ) 室蘭ジュニアヨットクラブ

(活動復活クラブ) 諏訪湖ジュニアヨットクラブ、小豆島ジュニアヨットクラブ

(退会クラブ) 江差ジュニアヨットスクール、秋田県セーリング連盟ジュニア、鶴岡ジュニアヨットクラブ、B&G山形海洋クラブ、B&Gななお海洋クラブ、猪苗代セーリングクラブ、栃木県ヨット連盟ジュニアヨットクラブ、柏崎ジュニアヨットクラブ、JMPFジュニアヨットスクール浜名湖、福山ジュニアヨットクラブ、中村学園山陽中学校高等学校ヨット部、B&G津屋崎海洋クラブ

(休会クラブ) 札幌ジュニアヨットクラブ、埼玉県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ、B&G伊丹海洋クラブ、B&G時津海洋クラブ、北九州ジュニアヨットクラブ、沖縄県セーリング連盟ジュニアクラブ

クラブの代表者以外の正会員は、理事14名、監事2名、その他2名の18名となり、上記加盟クラブ代表者の正会員と合わせて総計83名となっています。

(平成20年6月19日現在)

(ロ) 賛助会員については、ここ数年は新規募集が極めて難しい状況でしたが、一昨年度は、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」に新たに賛助会員となって頂くこと

が出来ました。更に昨年度、「アサヒ飲料株式会社」にも賛助会員になって頂く事が出来、両社には引き続きご支援頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ていません。

(2) 地方水域担当理事の活動（総務委員会／普及渉外委員会）

地方水域担当理事（東：小松勇一理事 西：内藤武夫理事）は、引き続き定例理事会、総会への出席や全国大会、東西日本地区大会等の競技運営への参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門（指導育成委員会）

(1) 本年度は、新たな公認指導員が8名認定されましたが準指導員の申請は無く、更新した公認指導員は50名、準指導員が2名にて、平成20年3月31日現在の公認指導員は165名、準指導員は13名が登録されています。

(2) 指導者研修会を平成20年2月23日の通常総会時に開催しました。

3. 普及と広報活動部門

(1) 普及・振興活動（普及渉外委員会）

今年度は、アサヒ飲料株式会社より地域普及大会に対する協賛金のご支援を頂く事は出来ませんでした。清涼飲料と「三ツ矢サイダーカップ」の名称の使用許可を頂いたので、従来から地元が中心となって開催していた九州ウィンターカップを地域普及事業として拡大した企画として、連盟からの補助金と運営資機材、清涼飲料を提供して、共同主催の形で、「2008三ツ矢サイダーカップ九州大会」を開催しました。

(2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会／普及渉外委員会）

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007」については東京都、東京都教育委員会、東京都港湾局等に対し、当連盟の活動への理解をお願いし、若洲シーサイドパークグループのご支援も頂き、東京都、東京都セーリング連盟、夢の島ヨットクラブ、中央区ヨット連盟、江東区ヨット連盟等の地元ジュニアヨットクラブとの共同主催で、若洲ヨット訓練所において開催が出来ました。

(3) B & G財団との協調活動（普及渉外委員会）

B & G財団に対し、その傘下海洋クラブの東西日本地区大会、全国大会その他当連盟の関与する大会への参加の呼びかけをして頂くように継続的に働きかけながら、協力関係の強化に努めました。

(4) 機関誌等の発行（広報委員会）

昨年10月にユースセーリング75号を発行、本年3月に76号を発行しました。新しい広報委員長の下で、各地のクラブを訪問取材する等、企画、記事等刷新した内容で定期発行の体制が整いました。

連盟ホームページも少しずつ充実してきました。連盟からの情報提供（大会の案内・実施要項・報告書・成績表・写真、連盟の事業計画・報告、収支予算書・収支計算書その他）などは発信出来るようになりましたが、今後は各クラブからのご意見、情報なども掲載出来るようにして行きたいと思っております。

(5) 競技会の開催（競技委員会）

(イ) 第27回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）を、5月3～5日に長野県野尻湖を会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、長野県、（財）日本セーリング連盟、長野県セーリング連盟、野尻湖ジュニアヨットクラブその他のご後援、ご協力を頂き、長野県ジュニアセーリング連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 19チーム、参加選手 72名（指導者・保護者・役員115名）

(ロ) 第27回日本少年少女オープンヨット大会（西日本地区大会）を、5月3～5日に愛媛県新居浜市のマリンパーク新居浜を会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、愛媛県、新居浜市、（財）日本セーリング連盟等のご後援を頂き、愛媛県セーリング連盟、松山ジュニアヨットクラブ、B&G松山海洋クラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 9チーム、参加選手 54名（指導者・保護者・役員126名）

(ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007を8月3日～5日に、東京都江東区若洲ヨット訓練所を会場に、文部科学省、国土交通省、（財）日本セーリング連盟等多くのご後援を頂き、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯の他に、招待外国チームの優秀チームと優秀選手への特別協賛賞アビームカップを頂いて、東京都、東京都ヨット連盟、夢の島ヨットクラブ、江東区ヨット連盟、中央区ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 29チーム（韓国、ロシア、ニュージーランド、オーストラリアの4チームを含む）

参加選手 126名（内 外国選手 20名）（指導者・保護者・役員165名）

(ニ) 第17回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2007）を、9月2日に東京都若洲ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 11チーム 参加選手 56名（内 中国、フランス、韓国各1名に日系外国選手2名）（指導者・保護者・役員140名）

(ホ) 2008三ツ矢サイダーカップ九州大会（第6回九州ウィンターカップ）を、平成20年2月2日～3日、鹿児島市平川ヨットハーバーを会場に、アサヒ飲料株式会社の清涼飲料の協賛を頂き、地元鹿児島県セーリング連盟、鹿児島ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 11チーム 参加選手 58名（指導者・保護者・役員95名）

(6) 諸外国との親善交流（普及渉外委員会）

(イ) 8月3日（金）～5日（日）、東京都江東区若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007に、韓国、ロシア、ニュージーランド、オーストラリアの4ヶ国から合計20名の選手と9名の指導者を招待しました。

- (ロ) 9月2日(日)、東京都若洲ヨット訓練所で開催の第17回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2007)に3名の外国選手と2名の日系外国選手の参加を得ました。
- (ハ) 11月3日(土)～4日(日)、韓国ソウル特別市で行われた東京都・ソウル市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。
- (7) ジュニアヨットクラブの安全対策事業(指導育成委員会/普及渉外委員会)
平成20年2月23日開催の指導者研修会の機会に、安全関係も含め講習しました。
- 以 上